

## 倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第3回:全体会） 会議録

1 日 時 平成27年2月19日（木）午後1時30分～2時30分

2 場 所 市役所議会会議室（本庁舎3階）

3 出席者

（1） 委員13名 欠席5名 （佐々木委員、福永委員、太田委員、布広委員、福井(利)委員）

（2） 事務局2名（美船課長、竹田主任）

（3） オブザーバー3名（北栄町：河上政策企画課主事、湯梨浜町：中本企画課長 広域連合：山崎総務課長）

4 会議の概要

会議次第に基づき、委員の紹介の後、パブリックコメントの結果及び次期共生ビジョン(案)並びに今後のスケジュールについて説明し、次期共生ビジョン(案)について承認をいただいた。

5 会議の内容

### 1 開会

美船課長：皆様本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。定刻となりましたので、只今から平成26年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会第3回全体会を開会させていただきます。

### 2 委員の紹介

美船課長：はじめに、会議次第の2番、委員の紹介に入らせていただきます。今回出席していただいた委員様でございますが、鳥取中央農業協同組合の参事、藤原委員様にお越しいただきましたのでご紹介いたします。

藤原委員：鳥取中央農協で参事をしています、藤原です。どうぞよろしくお願いいたします。

美船課長：よろしくお願いいたします。続きまして、本日ご都合により欠席をされた委員様についてお知らせします。倉吉商工会議所の佐々木委員様、鳥取県中部地域公共交通協議会の福永委員、鳥取県ケーブルテレビ協議会の太田委員様、三朝町の住民代表布広委員様、北栄町の住民代表福井委員様につきましては、欠席の報告をいただいています。

### 3 会長あいさつ

美船課長：続きまして、会議次第に基づきまして懇談会の開会にあたりまして、山田会長様からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

山田会長：こんにちは。ご出席いただきありがとうございます。ちょっとあいさつというよりも復習をしたいと思っております。我々は第2次鳥取県中部自立圏共生ビジョンの案を策定するにあたって色々なご意見をいただいているということで、資料の2ページを見てください。第1章のはじめにということで、ビジョンの目的ということで、第1期は平成22年からこの平成26年までの計画となっております。大きなポイントは、都市機能生活機能を確保して、この圏域で定住を促進し、持続可能な圏域社会を構築する、これが目的ということでした。そして、2の(2)を見ていただくと、この圏域はどこだということで、倉吉を中心とした、三朝・湯梨浜・琴浦・北栄の1市4町をこの圏域にしているということになっております。そして、その(2)の最後の方で、この中部圏域はコンパクト

トな自立圏域を目指す「小規模中心市型」に分類されるということで、これぐらいの規模を狙っているということになります。それで、平成22年から平成26年度が終わりまして、現在、皆さんからご意見をいただきながら策定しているのは、平成27年から平成31年までの5年間とするということで、これをPlan, Do, Check, Actionをしながら見直していくということになっています。これは、一応5年計画ということで、今日できればその案を作りたいのですが、そのビジョンの年間サイクルを見ていただくと、策定した後に必要に応じて見直し・改善をしながら具体的に変えていきたいと思いますという、このような方策です。このことについてまずはチェックをしておきたいと思います。それで、今回が今年度の3回目ということですが、1回目は12月22日だったでしょうか、これに向けて事務局から案をお示しいただいて、それについて皆さんのご意見をいただき、そして手直しをしながら、1月23日に手直しをしたもの、そして、それをもってパブリックコメントを出しました。今日の3回目の懇談会で、そうしたパブリックコメントのご紹介と、それをどう取り入れていくのか、あるいは、これはこういうふうを考えているというお話を伺いながら、できれば計画の案を本日ご了承いただきたい。このようなスケジュールで進んでいます。ということで、ご了解いただきたいと思います。中部圏域を皆で良い圏域にしていきたいと思いますので、どうぞ、ご意見をいただければと思います。

美船課長：ありがとうございます。

山田会長：それでは会議に入りたいと思いますが、その前に事務局から連絡があればお願いします。

美船課長：それでは事務局から2点、ご報告をさせていただきます。まず会議の成立要件についてでございますが、本日の出席は委員18名中13名でございます。よって、本懇談会は開催要件を満たしておりますので、成立ということをまずご報告させていただきます。続きまして、本日の日程でございますが、会議の次第に基づきまして、この後協議事項へと進めていただきますが、会議は概ね45分から1時間程度を予定しておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。それでは、これ以降の進行を山田会長様をお願いしたいと思います。お願いいたします。

#### 4 協議事項

##### (1) 第2次共生ビジョン（素案）に関するパブリックコメントの結果について

山田会長：それでは協議事項ということで、「第2次共生ビジョン（素案）に関するパブリックコメントの結果」について、事務局の方から報告をお願いします。

竹田主任：そうしますと、パブリックコメントの結果について、説明をさせていただきます。資料の方は、お手元の資料1になります。まず初めにパブリックコメントの実施の概要ですが、第2次共生ビジョンの策定に当たりまして、広く一般に意見を募集するため実施致しました。募集期間としましては、平成27年1月26日（月）から2月6日（金）までとさせていただきます。募集方法としましては、圏域の各市町の公式ウェブサイトにより周知を行い、各市町の庁舎、公式ウェブサイトで開催資料を閲覧できるようにしております。応募件数としましては、全部で7件でございます。次にパブリックコメントの内容と、それぞれの対応方針の案につきまして説明をさせていただきます。まず初めに、地産地消の関係ですが、『梨、スイカ、メロン、ブドウなどの農産物』と中

部の農産物を列挙している部分があるが、果物ばかりが目立つ。中部は、白ネギ、キャベツ、ブロッコリーなどの生産も盛んだから、そういった野菜にも注目していいのではどうか。」というご意見をいただきました。こちらにつきましては、資料2の14ページの内容かと思えます。こちらの方に特産物が列挙されておりますが、指摘のあった通り果物ばかりだったということで、野菜の関係も掲載してはということでございますので、ご指摘いただいたとおり、これらの産品としまして「白ねぎ、キャベツ、ブロッコリー、ながいも」についても記載をさせていただくと回答いたします。またその他にも、地産地消の関係のこれまでの取り組みも継続して行っていく旨を対応方針として回答させていただきます。

続きまして次の項目を説明させていただきます。「移住・交流の内容を見ると住居の整備状況しか把握していないようですが、移住者の状況も把握して、定住事業につなげるべきです。」ということでございました。こちらは、共生ビジョンの15ページになりますが、指摘いただいたとおりの状況でしたので、こちらの方の対応といたしましては、次のとおりとさせていただきます。「圏域の各市町の窓口における、移住を希望されている方からの相談、既に移住しておられる方へのフォロー等の取組を通じ、移住を希望される方等へのニーズや最新の動向を把握し、移住・定住に係る各種取組に反映させています。また、空き家情報の圏域での共有化、田舎暮らし体験プログラムの実施、移住情報の発信などにより、継続して圏域での移住・定住の推進を図っていきます。」ということで対応させていただくことにしました。

次の項目を説明させていただきます。これは共生ビジョンの48ページの内容になります。「雇用創出奨励事業とは具体的にどういった内容なのかイメージが湧かない。また役割の中で市が必要な調整をするところがあるが、奨励制度の創設は圏域で統一的な制度を作るのか、それとも各市町でそれぞれ作るのか分からない。」といった意見でございました。これにつきましては、「圏域に新規立地した企業に対して圏域内住民の雇用創出にあたり奨励金を給付する制度の創設を計画しています。この制度は、圏域内の住民が、圏域内に立地した企業で働いていることを目指すものです。方法としましては、当該企業が各市町の住民を雇用した際に、市町ごとに奨励金を、当該企業に対して支給することを考えています。したがって、圏域で統一的な制度を創設するものであります。これにより、当該企業による圏域の雇用拡大を図るものです。なお、制度の詳しい仕組み等については、市が今後、各町と調整を図りながら決定してまいります。」と回答させていただきます。

次の項目を説明させていただきます。八橋往来の関係ですが、共生ビジョンの方は45ページになります。「八橋往来は、北栄町にも関わりがあると聞かすが、事業計画の内容を見る限り、関係する部分が見えてこない」というご意見でした。こちらにつきましては、八橋往来は北栄町の方にも経由しているんですが、こちらの中にその事を記載しておりませんでしたので、ご指摘いただいた通り「倉吉市、北栄町及び琴浦町の一部に風情ある風景として懐かしさをしのばせている」という記載を追加させていただくことで対応とさせていただきます。

次ですが、「現在、政府がまち・ひと・しごと創生に取り組んでいるが、この取組も併

せて進めていくことはしないのでしょうか。もっと活用すべきではないのでしょうか。」という質問がございました。こちらにつきましては、共生ビジョンの 65 ページの内容ですが、圏域マネジメント能力の強化に関する取組で、「地方創生戦略勉強会の開催事業」というものを設定しております。外部講師を招きながら、圏域の住民及び行政職員による勉強会を開催して、地方創生戦略を効果的に活用していく取組をしたいということで、回答にさせていただきます。

次の項目ですが、「我々住民が望んでいるのは、せつかく 1 市 4 町が連携してやるのだから、もっと人や企業・お店が来て人口増加や就労場所を確保することです。特に働く場所が増えれば、若い人や子育て世代が増える見込みがあります。人が減る、企業・お店が減る中、中部は衰退していくことを何もしないで見守るだけでいいのでしょうか。それが定住自立で可能かどうかはわかりませんが、移住定住や企業誘致などをもっと効率的かつ効果的に行うしか生き延びる道はないように思えます。他の自立圏の事例をもっと取り込んでやるべきだと思います。」という内容がございました。こちらにつきましては、「これまでの共生ビジョンに基づいた圏域での企業誘致の取組を継続しながら、新たな取組として圏域に新規立地した企業による雇用創出を奨励する制度を創設し、圏域全体での雇用の拡大を誘発することを計画しました。また、他の自立圏での先進事例を取り込むことも重要だと考えますので、こうしたことも注視しながら、更なる圏域の産業活性化を図っていきたいと考えます。」ということで回答とさせていただきます。

最後に、「鳥取看護大学ができましたが、大学や学生と協力してまちに活気があふれるような取組を考えてみてはどうですか。」という質問がございました。こちらにつきましては、今後の検討課題といたしまして、67 ページから 72 ページまでの内容でございますが、こちらの方に記載をしてございます。回答を読み上げますと、「鳥取看護大学に関する取組については、平成 27 年 4 月に開学することから、第 2 次共生ビジョンの中では具体的な取組を設定しておりませんが、同大学との連携事業について、今後検討していく予定にしています。なお、このことについては、同ビジョン第 6 章「地域医療体制の充実」の項目に検討課題「鳥取看護大学との連携」として設定しています。そのほか「産業基盤の強化・充実」の項目として「中心市街地の活性化」、「交流による賑わいの創出づくり」の項目として「交流の場や機会の提供」といった取組も検討しており、これらを併せ、圏域の活性化につなげていきたいと考えます。」ということで対応方針とさせていただきます。

以上がパブリックコメントの報告とさせていただきます。

#### <質疑応答>

山田会長：はい。それでは何かご意見ございますか。

藤原委員：初めてで、申し訳ございません。鳥取中央農協の藤原と申します。今日初めて会議に出席させていただきましたので、少し変わった質問になるかと思えますけどもご勘弁を願います。地方創生の関係ですけども、65 ページに、研究するとか外部講師を招いてということで、31 年まであるわけですが、この地方創生というのが来年の 3 月にはある程度筋道を決めないといけないということで平井知事もロケットスタートを切られたところだと感じています。地域の中で色々な奇抜なアイデアが必要な中で、外と同じこと

をしていてもいけないのではないかなど。地域で知恵を絞ってということがこの地方創生だと思っております。その辺で、少し考え方をスピードアップしないといけないのではということと、やっぱり地域の中で、この圏域の中でとことん議論するようなことが必要ではないかなというところ。中央農協としても農業関連のこれまでにない取組であったり、そういうことを現在考えているところですので、ちょっと前倒しにするとか、やっぱり地域は地域で考えていくんだ、奇抜なアイディアというのが必要じゃないかというところ。以上です。

美船課長：地方創生の件でございますけれども、地方創生に関する法律が成立し、国においても地方創生に関するいろんな施策が出てきています。これを受けて今、県をはじめ、中部の市町それぞれが地方版の総合戦略の策定について、既に取り組みはじめております。おそらくこの中で広域的にやっていった方がいいようなものは、おそらく弾として出てくるんだろうなと思っております。この会議の当初より、地方創生との関係がいずれ出てくるだろうなということを出田会長様からご意見をいただいております。各市町の計画策定の中で、広域的な取組というようなものが出てくる中で、改めてこういった地方、定住自立圏というものを活用してやっていくようなものが出てくる可能性も十分にございます。それらは、この会がこれで終了というわけではございませんので、適宜必要に応じて、こういった場面を設けて、効果的にそういったものを取り組んでいくということは可能だと思っておりますので、おっしゃるとおり、そういった進み方をしていきたいと思っております。

山田会長：もうすでに、たくさんそういった会を立ち上げてやっておられると思います。今度2月24日にまたありますが、そういうことで、今説明があったとおり、必要なものは放り込んでいけばいいと思いますし、そういったスタンスですね。他にいかがでしょう。

福井(恒)委員：移住定住のことなんですけど、対応方針の案とあったので、特に否定することもないんですけど、ちょっと具体性の部分が、それこそ上の「白ねぎ、キャベツ、ブロッコリー、ながいも」は非常に具体的にわかるのだけでも、概念的なことはわかってても具体的なイメージが僕には伝わらなかったというか。どういうことかということ、各市町の縦の線で移住定住の促進に向けての案があって、活動して事業をしている。ただビジョンでの横の繋がりというのが感じられない。移住から定住にならなくて、例えば倉吉にいられた方が、どうも自分は湯梨浜の方が自分の生活の基盤にするのに良いという方が移住されて、横の連携が取れてないがために大阪に帰っちゃったと、あるいは関東の方に、沖縄の方に行っちゃったとかそういう事例が実はあって、それを少しでも鳥取県内、あるいは中部圏域の中で定住に繋がっていくように、その横の連携をとらないといけない時期に来てるんじゃないかと思えますね。だから本来、地方創生は各市町が自分達の資源を見出して活用するんだけど、横の連携も実はとても必要だと、それがお互いの市町のためになることだと思います。ここに1点書いてある「空き家情報の圏域での共有化」、これは概念としてはわかるのだけでも、具体的なことはこれから我々の中でということなのか、あるいは勉強会を開いてそれを具体的にしていくのか。そして、その空き家だけではなくて人の交流とか、そういったこともハードとソフトで両方必要なんじゃないかなと、意見として思いましたので言っておきます。

山田会長：是非実行してもらおうようにしましょう。

## (2) 第2次共生ビジョン（案）及び今後のスケジュールについて

山田会長：では、また後で戻っていただいてもいいので、次へ行きます。(2)の「第2次共生ビジョン（案）及び今後のスケジュールについて」説明をお願いします。

竹田主任：そうしますと、資料2になります。こちらの方で共生ビジョンの案の方を説明させていただきます。まず表紙の方ですが、日付の方が入っておりませんが、予定では3月31日付で公表ということを用意しております。内容につきましては、これまでの会議で説明していますので、細かいところは説明しませんが、第1章の概況の関係は先ほど山田会長様の方から説明をいただきましたので、1次に対して大きく変わっている部分について説明をさせていただきます。

6ページの内容を見ていただけますでしょうか。今回新たに中部圏域からの人口流出状況というものを掲載させていただきました。こちらにつきましては、グラフのとおり右肩下がりとなっております。社会増減につきましては、人口の流出が鈍化しているということでございます。いろいろな事情があるとは思いますが、そのひとつとしまして、この圏域での取り組みが、何らかの成果として出ているのかなと感じているところでございます。

続きまして、パブリックコメントの対応としまして、14ページ、地産地消の内容のところに野菜などの特産品を加えております。

次に、16ページでございますが、圏域の課題といたしまして「(1) 暮らしを支える生活分野に関連する課題」といたしまして、②の中、後段の方に、「圏内における若年の妊娠人工中絶の件数が全国平均を上回る状況にある。このため思春期保健対策の推進が求められている」ということを新たな課題として追加をさせていただいております。

次に、24ページになります。第5章定住自立圏形成協定に基づく具体的な取組といたしまして、こちらの方に今回の件で加えた内容など説明させていただきます。協定項目といたしましては、「アの医療」の部分ですが、思春期保健対策の推進としまして、新たな項目を加えております。次に、「エの産業振興、広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進」の協定項目でございますが、こちらの中、具体的な取組といたしまして、八橋往来周辺の魅力創造発信事業を加えております。次の段ですが、「企業誘致の推進」の項目に、鳥取県中部定住自立圏雇用創出促進奨励事業の項目を加えました。次は最後の方ですが、「圏域マネジメント能力の強化」ということで「ア. 人材の育成・確保」の中に、「定住自立圏構想合同勉強会」と「地方創生戦略勉強会の開催」を加えております。

事業の詳細に新たに加えたものは、28ページ、29ページの方に思春期保健対策の推進といたしまして、思春期の心と身体健康教育事業というものを設定しております。

次に、45ページですが、こちらの方に、観光の関係で八橋往来周辺の魅力創造発信事業を設定しております。

そして次に、48ページの方ですが、下段の方に、鳥取県中部定住自立圏雇用創出促進奨励事業を設定しております。

事業の関係では、これが最後になりますが、65 ページの方に、定住自立圏と地方創生の関係の勉強会の開催事業の項目を加えております。既存の事業にプラスして、只今説明いたしました事業ということで、第2次の事業とさせていただきます。

最後に、第6章の67 ページの内容ですが今後の検討課題の件についても説明させていただきます。今回の取組の中で事業具体化には至りませんでした。今後検討していくということで、いくつかの事業を盛り込んでおります。69 ページ以降に一覧にしておりますのでそちらの方を見ていただきますと、69 ページの「アの生活機能の強化」の項目でございますが、政策分野で言いますと「aの医療」の中で、②地域医療体制の充実の項目に「鳥取看護大学との連携」ということで、今後検討を進めていく事業を想定しております。次は「dの産業振興」の項目でございます。広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進といたしまして、「ウオーキングリゾートの推進」、「修学旅行の誘致」をこちらの項目に加えまして、次に同じく産業振興の中で、「d-①産業基盤の強化充実」といたしまして、「中心市街地活性化の推進」という項目を加えております。次に71 ページでございますが「jの交流・移住促進」の項目でございます。「j-①交流による賑わいの創出づくり」という項目に、「未婚・晩婚化の解消への取り組みの促進」を加えております。次は、「k. その他の連携（広報）」といたしまして、「k-①圏域情報の発信」といたしまして、「メール配信システムの共同利用」を加えております。以上の事業につきまして、今後検討を行ってまいります。

第2次共生ビジョン（案）の内容といたしましては以上とさせていただきますが、続きまして、今後のスケジュールについて説明させていただきたいですがよろしいでしょうか。

山田会長：はい。

竹田主任：今後のスケジュールにつきましては、共生ビジョン（案）の74 ページをご覧ください。こちらの方にこれまでの取組の経過を掲載しておりますが、平成27年2月19日の項目をご覧ください。これが本日の内容となっております。予定ですと、本日の会議で第2次共生ビジョン（案）を確認いただきまして、それに基づきまして3月20日～24日にかけて各市町の議会の方で、定住自立圏形成協定の変更に係る締結に関する議案の可決が予定されております。この20日～24日というのは、それぞれの市町の議会の最終日となっております。議会につきましては、それぞれ倉吉市が3月2日から、各町につきましても5日、9日辺りから開催されておまして、20日～24日にかけて最終日ということでございます。それが終わりましたら、3月25日に形成協定の変更ということで協定を締結する予定にしております。同日から各市町とのビジョンの変更に関する個別協議を行いまして、こちらが27日までを予定しております。これによりまして、3月31日に第2次共生ビジョンの公表ということで、今後のスケジュールとさせていただきます。事務局の方からは以上でございます。

<質疑応答>

山田会長：今の共生ビジョン（案）と、今後のスケジュールについて説明がありましたが、何か質問等ありましたら。

谷本委員：私の方から具体的に、どのようにして全国から倉吉の、この地区にどんどんお客さんが

来るような方策を立てていった方がいいんじゃないかということで、提案させていただいているんですけども、それはどうなってますか。さっき農協の方ともあったように、具体的にいろんなことをやっていかんと、どんどん遅れてしまうではないかと。私は具体的に提案させてもらってるんです。

美船課長：前回の懇談会の際にいただいた、例えば施設を設置するような形での農産物あるいは水産物、そういったものの直売ができるような通年型の施設ということでしたね。

谷本委員：そうです。そういう施設をどうするかということです。そういう方向をちゃんと決めてですね、やっていこうというときにいろんな計画を、ああしようこうしようができるわけですから、まずはそういうものをやるかどうかということなんです。今回、このビジョンを見てても、だいたい今まであったものをベースにしたイメージです。そうじゃなくて、やっぱり、こういう定住自立圏というものをやっているわけで、それには今までにやってないことをどんどんやっていこうと、それで日本全体を活性化していこうと思うようなこと、私は今回の地方創生も同じようなことだと捉えているんです。そういうことで、やっぱり今までやってないようなことをやるために、私らが集まって、いろんな方面から、今までの行政感覚でない意見も出させてもらっているわけですから、やっぱりどうするかということだと思うんですけどね。

美船課長：そういったご意見も伺っております、おそらく今回の地方創生だとか、そういった中である程度財源的な確保の問題であるとか、そういったことが見えるような形になってくることを視野に入れながらの議論になっていかないといけないというふうにも…

谷本委員：計画がなかったら予算もクソもないじゃないですか。

美船課長：今現在、この定住自立圏で行っているっていうのは、特別地方交付税っていうものの算定の中でやっておりまして、そう大きな財源で動いている内容ではございませんので、その辺りの斟酌が必要などころがございまして、我々も、大きな計画、大きなモノということについては財源的なものの裏付けというものを同時並行して確保していかないとかなかなか前には進めていけないということがございまして、今この定住自立圏でやれるところの範囲としては、少し大きな箱物といいますか、そういったものを直ちにかかるか、かからないといった議論に入れるような制度的な財源的な裏付けがない現状でございまして。中部圏域にそういったものが必要であるということについてのことも含めて、今後の議論にゆだねさせていただければと思うんですけども。今今ということには。

谷本委員：さっきも言ったように、予算というのはこれからの話じゃないですか。まず方向性をちゃんと決めて、じゃあこれをやっていこうというところから、色々な検討になってそれから予算が動くわけですよ。今、お金を出すから皆さんやってくださいということなんですか。

美船課長：ですから、地方創生という大きな流れの中で、今後検討させていただきませんかということですが。

谷本委員：ですからね、ここで計画してですよ、地方創生の構想の中に入れて、そちらから予算を工面していこうということができないじゃないですか。

美船課長：財源が確保できる分野で、財源が確保できるところで、議論がなされるのが最初になっていくのだらうと思います。



谷本委員：いや、財源はわからんじゃないですか。これからの計画の中でやるわけですから。ただ方向性はちゃんと決めないと。方向性を決めていろんなことをやってですよ、財源的に無理だったら、ならこれはできませんと言うのだったらわかりますよ。財源までまだいかんわけでしょ。

美船課長：定住自立圏という制度では、その制度の裏付けになる財源というものの中で、この議論というのが進んでおりまして、そこに、その範囲を大きく超える財源がいるということになりますと…

谷本委員：私の計画は大きくオーバーしちゃうんですか。

美船課長：すぐにいくらオーバーするとは、現時点では言えませんけども。

谷本委員：まだやろうと決めて計画立てようやというところでしょ。

山田会長：今大きく動いてるのは、地方創生の部分です。これは従来のパターンでやってきているので、これは僕も初めから執行部に言ってるんですけども、多分そういうものは地方創生の中で入れ込む方が、多分直接的でこれから予算が出てくると思います。そういうアイデアを出したのものには国は予算を出すと言ってるんで、そっちで乗っけていったらと思います。お金の出所が違うんですよ。そこでのお金だからとりあえずこの程度でまとめざるをえんだろうという感じ。ただ、上手に地方創生から連携型が出てきたら、ローリングするとき、ここへ入れ込んだら、またそれは定着するだろうという形で、今の段階では地方創生の方で何を入れられるかをどんどんやった方が賢いかなと思ってますけども。そのためのヒアリングをいっぱいいろんなところでやってるんで、僕もあちこち回ってるんですけども、ここに全部ぶち込むのはちょっと無理かと思えます。

谷本委員：今会長さんが言われましたけど、地方創生をいろいろこれからやるわけですけども、わからんじゃないですか、さっぱり。だけどそれは、自由にいろんな事をやってくださいと、それで地方創生の事業の中で、予算の中でやるということは、いろんな組織とかなんとかから自由な発想を出してくださいと、それで活性化していきましょうということなんですよ。で、私はこれも1つのことでね、この中にも地方創生が入ってきました。勉強会もするってことですよ。

山田会長：地方創生のいろんな会議を市役所でやられるときにこういうご意見があったっていうのは、そちらでちょっと入れ込んでということで。また別の場での地方創生で意見があったときは、それぞれの思いを言われたらいいと思います。ちょっとここに入れ込むのは、今の段階では無理だと思います。他は、どうぞ。

藤原委員：前回欠席でしたので、谷本さんの案がどういうところまでの案なのかは全然理解してないんですけども、要するに箱物作れっていうことではなくて、そういう鳥取県の産物なんかを観光できたら、あるいは地元の方でももっと買っていただけるような、見ていただけるような機能がほしいということですか。ですから何億もするような箱物を作って、そういう場所を作れということじゃないわけですよ。だとすればこのビジョンとしてそういう機能が必要だってことは、さっきのフルーツだけじゃなくて野菜も入れろっていうご意見と同じように、そういう産物がそれだけあるんだから、それをどうやって活かしていくんだと。片方では観光地もある。それを結びつけることができるじゃないかと、ということなのかなというふうに理解はいたしました。それからその地方創生のこ

とで言えば、もう今年度、26年度の予算の補正としてどんどんどん決まっているとこでございますし、27年度の予算についても、4月5月に案を出してないといけないわけですよ。そうすると、なかなか、いろんな立場の方いらっしゃるんですけどそういうとこに意見が言えていけるチャンスっていうのは時間的に限られていて、もう行政主導で案を作ってそれに乗っかるだけしかないような雰囲気になっちゃってますんで、数少ない我々の意見が言えるところっていうのは、ちょっとでも利用してかなきゃいけないのかなと感じました。このビジョンに馴染むのかどうかっていうところはありますけれども、谷本さんの思っているのはこのビジョンの中に生かされてもいいのかなとは感じました。

山田会長：それはちょっと検討して下さい。ただ、箱物の話はちょっと無理だと思います。

藤原委員：こないだの議事録読ませていただいて、JAの直売所のことで意見がありましたけども、今15億円を目指してやっているところが、なかなかこれを超えることができないということで、それはちょっといけないかなと。やっぱりあきらめるという部分もあるんで、さっきのお話やいろんな部分について変えていかないといけないと思います。

谷本委員：すいません。私がこの案を提案させてもらったのはですね、農協さんがやっておりますよね、あれが、一部の店では県外からのお客さんもあるでしょうけど、ほとんどの地元の人が利用しておられるということであれだけの売り上げしとられますから、私はあれの全国版というか、買い出しに来てもらおうと。それで良い物があるよと、そしたら買い出しに来てもらって、そうすると宿泊客も増えるでしょうし、そしたら活性化のひとつの大きな支えとして、やっぱりこの地区の強さというか、農産物海産物だと思いますので、それを活かすためにはそういうことをやって、そんな箱物とかそんな大層なものはいらんと思います。プレハブで結構だと思ってます、僕は。そういうことでやっぱりこの地区の強さを発揮して、やっていくことは、本当に今やらないといけないことではないかと。ですから私は、そういうものが計画されたときにはね、JAさんが中心になって、やっていく方向にいくんじゃないかと私は思うんですけど。

藤原委員：今度3月の中旬にはハワイにあります夢マート、これをちょっと店舗拡大しますので、そういうところでやっぱり温泉地であったり、車着きがよかったり、道路が良かったりしますので、良いところができると思います。

美船課長：どうでしょうかね。今谷本さんのご提案というのは、地産地消というよりも、外からのお客さんを惹きつけるような施設、機能というイメージですかね。

谷本委員：そうです。地元で農産物、そんなに珍しくないところにJAさんの、あれだけマートでいろんな、4カ所5カ所ですか。

藤原委員：8カ所です。

谷本委員：8カ所でやっとなるわけですから、やっぱり全国のお客さんを相手にしたものを、やらんともったいない。

竹田主任：ビジョンの中では地産地消の関係につきましては、生産者、消費者などのネットワークの構築ということでこれまで取組を進めておりまして、その関係で提案をいただいていたのかなというところもあったんですが、そうではなくて、という感じですね。

谷本委員：私らの発想というのはね、こういうことがあって何財源がいるかなとか関係ないんです。

それならどこに行くのは私にはわかりませんが、だれでもこういうものを作らんと、強さを発揮するためにはね、そういうのを作っていかんともったいないですよ。せっかくあるんですから。やっぱりこの強さはそこだと私は思いますからね。

山田会長：お役所の立場でいうとどこに当てはまるかわからない感じですね。

谷本委員：それは任せます。私にはわかりませんから。

美船課長：観光商品みたいな感じですかね、谷本さんのおっしゃるイメージだと。

谷本委員：観光にも関係ありますし。

竹田主任：あとは圏域で協力してやっていくという視点での話についてはどうですか。

谷本委員：さっきも言ったように買い出し旅行に来てもらうんです。この地区の自慢のものを買い出しに来てもらう。

竹田主任：手段としてはそうかもしれませんが、この取組としては1市4町で協力して、何かをつくっていくとか、課題を解決していくというような視点で話をしていくんですけど、そういった点では、どういった点で協力をしていくのかなというのがちょっと。

谷本委員：それはおまかせします。どういう形でされるのか、倉吉市でやるのか、4町で協力してそういうものを、そういう施設をつくるのか。

竹田主任：個別でもできたりするような話なのか。例えば倉吉市だけでとか、琴浦町だけでされるとか。

谷本委員：それはおまかせします。わかりません私。

竹田主任：それがイメージできたら、この定住自立圏でなんとか協力してやっていきたいと思いますという協議を進めていくような形になると思うんですけど。

藤原委員：JAとしてはご意見としていただきます。

山田会長：そういうご意見があったというのはとりあえず踏まえて、何ができるかできないか、この中で、できなければまた他のところでというところで、とりあえず終わりにさせていただきます。

谷本委員：この前も言いましたけど、こういうビジョンを行政の課長かどうなのか知りませんが、そこで判断して決めちゃうというのは私には分からない。それだったらここにちゃんと来て説明せんと。

山田会長：はい。他はいかがでしょうか。

松田委員：はい。69ページ以降のこの色が付いている部分、この部分っていうのは、これから3月25日に協定の締結というところにかかってくるということですか。このグレーの部分というのは、これからどういうふうな形で進めていかれるのですか。

竹田主任：これは、今後担当者会等で検討していきまして、実施にむけて協議を進めていく項目になっております。

松田委員：協定の締結の、その議会提案というのは、どういう形で何を提案されるのですか。

美船課長：具体的に協定項目として議会の議決を採らないといけないという内容でいきますと、本日お話をさせていただきました、思春期の保健対策の推進という新たな取組をすることにしたので、圏域における人工妊娠中絶の減少、性感染症の予防をはじめとする思春期の性にかかる健康対策、こういったものを新たに圏域で取り組んでいこうということについて、協定の変更をするということ、これを加えるということ。

竹田主任：協定の内容につきましては、28 ページの方に規定の内容を掲載しております。この中段のところに、定住自立圏の形成協定の規定の内容ということで記載がございますが、思春期保健対策の内容につきましてはこの内容により1市4町で協定を結びます。

松田委員：1市4町で、これについて皆さん同じ方向で進んでいきますよということですね。

竹田主任：そうです。企業誘致の部分につきましては46 ページをご覧くださいませでしょうか。ページ下段に同じように規定の内容とございまして、倉吉市、関係町のところに雇用創出奨励制度ということで①～③の規定を掲載しております。この内容でもって1市4町で協定を締結いたします。

松田委員：要するに網掛けの部分というのはこれから検討していくと。

竹田主任：これから検討を進めさせていただくということでございます。

山田会長：これが2ページとも絡んでくるんですね。

竹田主任：左様でございます。

松田委員：そうしますと、この網掛けの部分というのは非常に多岐に渡ってるわけですね。これはここの懇談会ではなくて、各専門に落とし込んで、協議されて、またここにフィードバックされるということですか。

竹田主任：はい。そのような流れになっております。

山田会長：他にいかがでしょうか。じゃあとりあえずこの案を承認ということでよろしいでしょうか。ただ皆さんの思いが沢山あるので、それをどう入れ込むかとか、あるいは事務局の方でどう具体化するかというのは、今後検討いただきたいと思います。あと他に皆さん方から何かありますでしょうか。じゃあ事務局から。

美船課長：では事務局の方から連絡をさせていただきます。本懇談会でただ今ご了承いただきました共生ビジョン(案)につきましては、今後国の定める手続きに従い、各町との正式な協議等行った上で、本年3月末頃に公表をさせていただきます。今年度予定している懇談会は今回で終了となりますが、委員の皆様におかれましては、ご多忙中ご協力いただきまして本当にありがとうございました。また委員の皆様の任期につきましては、来年度末までとなっておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと考えております。本懇談会につきましては、今後も状況を見ながら会長と協議し、定期的開催させていただきたいと思いますので、引き続きご協力をいただきたいと、重ねてお願いを申し上げます。以上でございます。

山田会長：はい。皆さんどうもありがとうございました。先程もありましたが引き続き、是非創生会議のことを学びながら意見を言うような機会を、早めにどこかで作って、またここに入れ込める部分があれば、是非検討できれば良いなと思ってます。どうもありがとうございました。

<閉会>